

□

問一 1 若干 2 支(仕)度 3 臨終 4 当該 5 慣用 6 素朴(樸) 7 瞬(き)

問二 今の現実を見ず過去や未来への雑念や他の空想に耽る散漫な状態。(三〇字)

問三 「今」と呟くことで、「今」がどういう生活の日々を経てきたかを意識し、自分が現在どこに立っているかを自らに明確化する行為。(六〇字)

問四 感覚では捉えられても数量化や可視化できない時間の速さを、特定の時間における運動や変化の量として理解しようとしているから。(六〇字)

問五 外界の変化に関する経験は時間自体の速度とは関係がなく、人間も時間を客観的に見ることができない以上、「今」が自然に経過しても、「今」が通過することで生きてこられたという人間の認識に影響はないということ。(二〇〇字)

□

問一 歴史は自由主義と民主主義の勝利で終わったわけでもなく、まとまりをもった巨大文明圏が複数立ち上がって世界を分かつこともなさそうである。（六五字）

問二 イスラーム諸国間や欧米世界における不和と分断。（二三字）

問三 中央組織が無く地理的な連続性と一体性に囚われず、分散した運動の主体が結合する点。（四〇字）

問四 共通の規範体系と、グローバル化や情報通信手段の普及との結合。（三〇字）

問五 自由も強権も望む個人の複雑な心性と同様に、グローバル化と情報通信技術の普及を通じて種々のイデオロギーが、明確な境界を失った世界に様々な分断をもたらすメカニズム。（八〇字）

三

問一 ロ 正しい意味を明らかにする人がいなかった
ホ 一方では

問二 枕詞が和歌の初句にだけ置かれるなら「枕」の語義に適っていて納得できるが、第三句にも置かれる例があるのはなぜかということ。（六〇字）

問三 『古今集』仮名序の「まくら」と真名序の「臣等」が対応していることを根拠に、「枕詞」を「臣下が奏上した詞」の意と解する説。（六〇字）

問四 枕詞の正しい意味とその由来を、むやみに他者に伝えず秘匿せよということ。

四

問一 a あらためて b そなへて c あへて d かくのごとし

問二 これまさにくわさいあらんとす（と）

問三 優れた医者は発症前の病気を治し、賢明な君主は世を乱すであろう首謀者を根こそぎ排除する。

問四 淳于髡の隣人が、火災の危険性と防止策を指摘した淳于髡を軽んじた一方で、消火に尽力した人を饗応したように、未然に対処する重要性を見失っているということ。（七五字）